

小 / 理科 / 6年 / 生物と環境 /
人と動物の体 / 理解シート

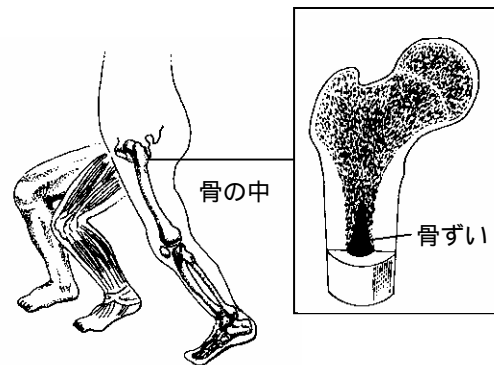
血液は、体のどこでつくられるの



血液の中の成分は、みんな骨の中の、骨ずい^{こつ}というところ^{ほね}でつくられているのさ。

血液のおもな成分は、血の赤い色のもとである赤血球、色のない白血球、血小板などです。これ以外は、血しょうとよばれるとう明な液で、その約92%が水分、残りは血がかたまる^ことき使われる材料や、いろいろなタンパク質などです。

血液の成分は、骨の骨ずいでつくられます。太い骨を割ってみると、かたい外側の中はスポンジのようなつくりになっていて、このすき間に入っている赤色のやわらかいものが骨ずい^{こつ}です。骨ずいには、あなの開いた細かい血管が網の目のように走っていて、新しくつくられた血液は、このあなから血管に入り、全身に運ばれていきます。骨ずい^{こつ}は、小さい骨や厚さのうすい部分には、ありません。



赤血球や白血球は、酸素を運んだり、細菌^{さいきん}から体を守る役目をする

赤血球は、中の赤い色素（ヘモグロビン）が酸素と結びつきやすいため、肺^{はい}でとり入れた酸素を体内に運ぶ、大切な役目をしています。血液1ミリ立方メートルの中に、大人なら450万～500万個入っています。骨ずいでつくられた後、90～120日ぐらいでじゅ命^{じゅめい}がきて、かん臓^{かんぞう}などでこわされます。

白血球は、体内に入ってくる病気のもとである細菌を、つつみこんで食べてしまう役目をする、赤血球より大きく、色のない成分です。白血球のじゅ命は、およそ10日ぐらいといわれています。